

JOSKAS ニュースレター

2022 JOSKAS-JOSSM 開催について

第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 会長
北海道大学大学院保健科学研究院リハビリテーション科学分野 教授

遠山 晴一



この度、第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）を北海道大学医学研究院 整形外科学教室 岩崎倫政教授が主催されます第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会（JOSSM）とともにJOSKAS-JOSSM 2022という形で、6月16日～18日の3日間、札幌コンベンションセンターで開催いたします。JOSKAS-JOSSM 2022のテーマは、『Spread Your Wings -飛翔-』とさせていただきます。これは、JOSKASとJOSSMの両学会が共に発展的变化を経て、今後に飛躍してほしいという思いを表したものです。今回、合同開催となることで各学会単独では解決困難であった臨床や基礎研究での課題に対し、活発な討論ができる場にしたいと考えております。

基調講演を北海道大学総長 寶金清博先生、文化講演を野球日本代表「侍ジャパン」監督 栗山英樹氏にお願いしております。さらにJリーグチェアマン 野々村芳和氏のトークイベントも企画しております。本年度のMasaki Watanabe AwardはAmerican Journal of Sports MedicineのEditor-in-ChiefであるBruce Reider先生が受賞されますので、受賞講演をお願いしております。シンポジウムとパネル

ディスカッションの企画立案には両学会の評議員、代議員の先生のご提案を可能な限り、反映させていただきましました。両学会の会員の皆様が積極的に討論に参加していただけることを願っています。

一般演題に関しては、約1100題の応募がございました。長期にわたる新型コロナ感染拡大の影響による応募演題数の減少を心配していましたが、感染拡大による診療や研究活動の制限がある中、演題応募に繋がる成果を挙げてきた会員の皆様に心より敬意を表します。また、演題査読等にご協力いただいた会員の皆様方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。会場の都合上、ポスター発表になる演題もごございますが、それぞれの成果が参加された方々にしっかりと伝わり、充実した討論がなされるように準備いたします。

6月の札幌は季候も良く、訪れるにはもっとも良い季節です。多くの皆様方にご参加いただき、活発なご討論を心よりお願い申し上げます。

会告

第14回（2022年）JOSKAS 《JOSKAS-JOSSM 2022》

会期：2022年6月16日（木）～18日（土）

会場：札幌コンベンションセンター

〒003-0006 北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

会長：遠山 晴一（北海道大学大学院保健科学研究院 リハビリテーション科学分野）

テーマ：Spread Your Wings —飛翔—

URL：<https://www.congre.co.jp/joskas-jossm2022/>

参加登録期間（事前参加登録）：

2022年5月23日（月）～6月18日（土）14時まで

《合同開催》第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会

会長：岩崎 倫政（北海道大学大学院医学研究院 整形外科学教室）



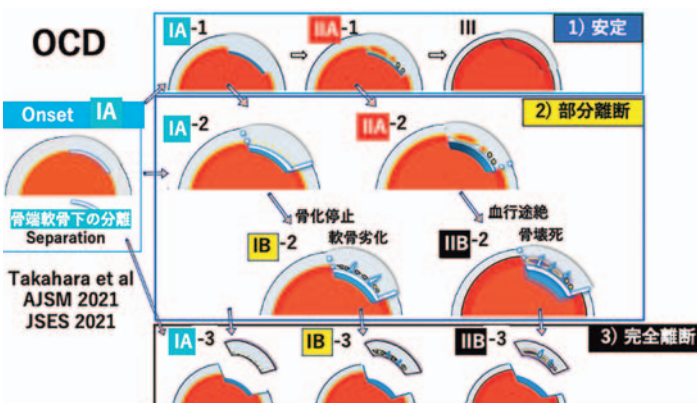


離断性骨軟骨炎 (OCD) の病因として、外傷、壊死、および遺伝が挙げられており、およそ 100 年にわたり、結論が得られていない。外傷説、壊死説ともに OCD の組織学的特徴の一面に基づいており、共に根拠のある説であるため、未決着のまま経過したと思われる。

OCD の特徴を列挙すると、1) スポーツ関連が多いが、まれに多発的、家族的に発症。2) 骨端線閉鎖前：症状軽微、変化が乏しい、局所安静で治療可能 (1-2 年)。3) X 線変化：i) 成長中の骨端骨の表面の平坦化や陥凹、ii) 遅れて骨化の出現、iii) 骨片と骨端骨の癒合。4) X 線病期：I) 透亮、II) 骨化、5) 治療過程：骨化と癒合、小頭外側が先行、小頭中央は遅延。6) スポーツ継続：不安定化 (健全軟骨との境界の亀裂や折損)、治療中断。7) 骨端線閉鎖後：痛み、引っかかり、可動域制限、遊離体・骨棘形成。

最近の研究成果を列挙する。1) 発症時年齢はほぼ 11-12 歳に集約された。骨端線閉鎖後の OCD も骨端線閉鎖前に発生し、同じ治療過程を経てきたと考えられる。2) OCD の断面は関節面側から 3 層 (関節片、中間層、および母床骨) に分けられ、中間層には分離空間と線維軟骨が様々な割合でみられる。母床骨は正常の骨であり、骨壊死はみら

れなかった。3) 関節片は骨成分がない軟骨性 (I) と骨成分がある骨・軟骨性 (II) に大別され、さらに、ほぼ正常な軟骨性 (IA)、変性劣化した軟骨性 (IB)、骨化中の骨・軟骨性 (IIB)、壊死した骨・軟骨性 (IIB) の 4 つに分けられた。4) X 線病期 I と II はそれぞれ軟骨性 (I) と骨・軟骨性 (II) に整合したことから、軟骨性関節片 (IA) 内に軟骨性骨化 (IIA) が出現することが示された。骨化には母床骨からの血液供給が必須である。5) IA の年齢と骨年齢は最も若く、罹病期間が最も短かった。したがって、OCD は IA (軟骨の分離) から始まることが示された。骨化が停止したまま経過すると、軟骨の変性・劣化が進行 (IB) する。IIB は最も高年齢で罹病期間が長かった。関節片内の生存骨 (IIA) への血行が障害されると壊死骨 (IIB) になる。骨壊死は終末期の変化である。6) ギプスを用いた肘の固定によって安定 OCD の治療完了までの期間が大幅に短縮され、早期スポーツ復帰が可能となった。外固定は安定 OCD の線維軟骨性架橋を堅くし、骨化と癒合を促進した。7) 肘 OCD は成長期に競技スポーツを行っていた選手に発症していた。成長骨端では軟骨・軟骨境界部が剪断力によって損傷され易い。スポーツによって剪断力が成長期骨端に加わり、骨・軟骨境界部に外傷が生じ、OCD が発生した可能性が高い。8) 遺伝的素因のため OCD が発症し易い家系が報告されているが、病的骨折と同様に OCD の始まりには外傷の関与が必要である。



OCD 参考文献

- 1) Kusumi T, et al. Histopathological assessment. *Pathol Int* 2006.
- 2) Takahara M, et al. Pathology. *AJSM* 2021.
- 3) Takahara M, et al. Staging. *JSES* 2021.
- 4) Takahara M, et al. Conservative treatment. *JSES* 2022.
- 5) Uozumi H, et al. Histologic findings. *Am J Sports Med* 2009.
- 6) Yonetani Y, et al. Histologic evaluation. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc* 2010.

北京冬季オリンピックに 帯同して

札幌医科大学保健医療学部理学療法第二講座 教授 渡邊耕太



札幌医科大学医学部整形外科学講座 准教授 寺本篤史



北京 2022 冬季オリンピック競技大会に日本選手団本部ドクターの一員として帯同しました。本部ドクターは私たち整形外科医師 2 名の他、内科医師 2 名、コロナ対策責任者の合計 5 名体制でした（写真 1）。本大会は氷上競技を中心とした北京地区と雪上競技を中心とした張家口、延慶地区に分かれて開催され、その間は 180 km ほど離れていたため選手村が分村となりました。各選手村に整形外科医師 1 名と内科医師 1 名を配置し、選手の医学サポートを行いました。

大会は 2022 年 2 月 4 日から 20 日までの 17 日間でしたが、開会式 12 日前の 1 月 23 日には先発隊として北京に到着しました。準備期間中は選手村内に日本選手団のための医務室を設営し、競技会場やポリクリニックの視察を行いました。日本から必要な医薬品と医療器具を全て持ち込みましたが、整形外科的には超音波画像診断装置が大会期間中を通して大変役に立ちました。

北京地区はスピードスケート、ショートトラック、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリング、スキービッグエア、スノーボードビッグエアが行われました。中でもスキー/スノーボードビッグエアは公式練習や試合において転倒による外傷が発生し、医務室にて超音波検査を用いた診療を頻回に行いました。また、必要に応じてポリクリニックでのレントゲン撮影、後方支援病院での MRI 撮影も行いました。

張家口の競技会場はスキー・スノーボード（スキー・スノーボードクロス、モーグル、エアリアル、ハーフパイプ、パラレル大回転、スロープスタイル）とノルディック系（ジャンプ、クロスカントリー、バ

ィアスロン）の 2 つの地域にコンパクトにまとめられました。雪が少ない地域なのでコースは人工雪であり、標高が 1700 m 程度と高く寒冷（夜は -20℃ 以下）の条件のため、雪が氷のように固くなっているという特徴がありました。

張家口地区で病院へ搬送が必要となった外傷が 2 件ありました（胸椎損傷と ACL 損傷）。いずれも公式練習中にスロープスタイルのキッカー（ジャンプ台）で、ジャンプ着地時の受傷でした。胸椎損傷例は入院と手術が必要となりました。コロナ禍の厳重な対策の中、病院内では全員が防護服を着用し、選手団ドクターであっても当初は病院内に入れてもらえないなど、スムーズに選手のサポートができない状況もありました。冬季オリンピック期間中の手術例の発生は記憶にある限り初めてです。競技出場不能となった選手への身体的、精神的ケアはもちろんのこととして、異国での手術の可否判断や内容の確認、医療習慣の違いへの対応などは新たな経験となりました。

大会を通してコロナ対策は非常に厳重であり、選手ならびに役員は毎日咽頭ぬぐい液による PCR 検査が行われました。大会組織委員会の報告では、選手村 PCR 検査による陽性率は 0.01% で、クラスターの発生は認められませんでした。日本選手団においてコロナのために競技に出場できなかった選手はならず、十分な感染対策がなされました。日本選手団は金 3、銀 6、銅 9 と冬季オリンピック史上最多の合計 18 個のメダルを獲得しました（写真 2）。我々の医学サポートが選手の大活躍の一助になったと確信しています。

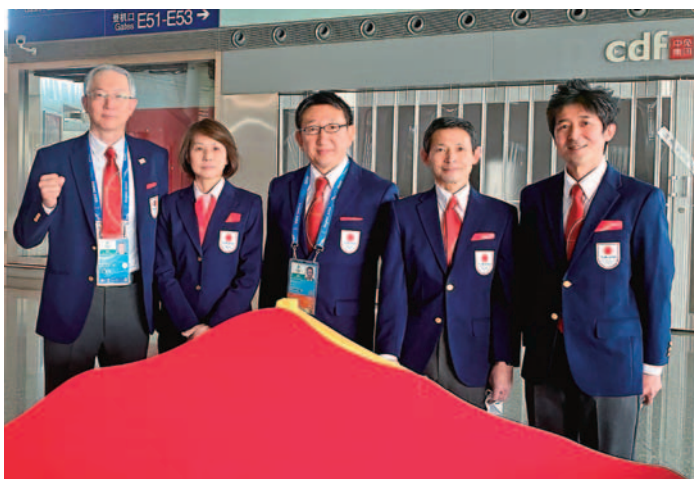


写真 1 日本選手団本部ドクター（左から渡邊、土肥美智子先生、石田浩之先生、蒲原一之先生、寺本）



写真 2 男子スノーボードハーフパイプ決勝後の選手とスタッフの全員写真
平野歩夢選手が金メダルをとってくれました。

社会保険委員会



担当理事 二木康夫
慶應義塾大学医学部 整形外科
准教授



委員長 須田康文
国際医療福祉大学塩谷病院
病院長

JOSKAS 社会保険委員会は、二木康夫担当理事のもと、8名のメンバーから構成され、前担当理事の竹内良平先生に助言を頂きながら以下の活動を行っています。

JOSKASに関連した術式について、診療報酬コードの適応や診療報酬額の設定が適正か否かを評価・判断し、必要に応じて、新規術式登録あるいは従来の診療報酬コードの適応拡大を厚労省に諮ることが主な活動内容です。また、その結果を次期診療報酬改定に反映させることが最終目標となります。本年4月の診療報酬改定では、「K054-2 脛骨近位骨切り術」が新規術式として採択されました。診療報酬額は283,000円です。「K054 骨切り術 2 下腿」の226,800円に比べて増額となりましたが、本術式に掛かる費用（手術難易度、携わる人員の数と構成、手術時間等から計算される人件費と償還できない費用の合計）が591,097円（外保連試案に掲載）であることを鑑みますと、残念ながら決して十分な額とは言えません。次期令和6年度診療報酬改定に向けての要望項目として、現在のところ「半月板制動術（仮称）」（半月板後根損傷に対する修復術や半月板 centralization 法に対する新たな診療報酬コードの設定）、「ダブルレベルオステオトミー（仮称）」（膝関節温存手術に対する新たな診療報酬コードの設定）を計画しています。

委員一同、令和6年度診療報酬改定に好結果が得られるよう努力する所存です。会員の皆様には、引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

（委員長 須田康文）

告知：新コーナーのご案内

このたび、JOSKAS ニュースレターでは、おすすめの書籍等を紹介するコーナーを新設いたします。ニュースレターで紹介したい書籍等がありましたら、事務局（info@joskas.jp）までご連絡ください。皆様からのご推薦（自薦、他薦）をお待ちいたしております。

編集後記

新潟医療センター 副院長 佐藤 卓

COVID-19に加えてウクライナ侵攻や観光船沈没などの暗いニュースばかりが続いている中、6月の第14回 JOSKAS (2022 JOSKAS-JOSSM) は感染対策を十分に講じた上での現地開催予定となっており、会員の皆様は face to face による熱い議論をととても楽しみにされていることと推察します。今回のニュースレターでも会長の遠山晴一先生から同学会の開催について、『Spread Your Wings-飛翔-』をテーマとして、多くの魅力的な企画が準備されていることを報告して頂き、更なる期待が膨らんでおります。

また、泉整形外科病院の高原政利先生からは、OCDの病因論について非常にわかりやすく解説して頂き、外傷や骨壊死という議論を整理して頂きました。更に、札幌医科大学の渡邊耕太先生、寺本篤史先生からはコロナ禍での北京冬季オリンピック帯同

について、現地帯同した方しか知り得ないリアルな状況や、多くのご苦労があったことを報告して頂き、お二人を含めた医学サポートが今回の日本選手の大活躍に多大な貢献をされたことが伝わってきました。社会保険委員会からは委員長の国際医療福祉大学塩谷病院の須田康文先生から JOSKAS 関連の術式の診療報酬に関する近況や問題を報告して頂いています。

コロナ禍も2年を超え、学会の開催形態は様々なモダリティを有する時代になりましたが、科学的に様々なメリットがある現地開催が安全に行われるようになることを心から願っております。



JOSKAS ニュースレター No.22 2022年5月31日発行

編集：日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 ニュースレター委員会

中村憲正（担当理事）、井上雅之（委員長）、赤木龍一郎、熊橋伸之、佐藤卓、杉本和也、橋本祐介、松下雄彦

発行：一般社団法人日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング株式会社コングレ内

(TEL) 03-3510-3746 (FAX) 03-3510-3748 (E-mail) info@joskas.jp (URL) https://www.joskas.jp/